

沖繩全軍労スト防衛・

アメ大闘争に結集せよ

全軍労首切り全面白紙撤回闘争に
沖繩全島・本土人民は総決起せよ

第四インター日本支部日本革命的共産主義者同盟

全国の革命的労働者・学生諸君！
沖繩全軍労は沖繩本土復帰闘争二五
年間の全成果をかけて極東アジア最大
最強の反共反革命軍軍機構との五日間
に及ぶ死闘に突入した。それはまさし
く死闘である。沖繩人民の本土復帰闘
争がこの二五年間極東アジア反共反革
命軍軍視点の重圧の下で、この重圧に
抵抗し、苦しみそしてこの重圧からの
抜け出ようとして闘いぬいてきた本土
復帰闘争がこれまで遂に直接的な告発
解体の対象にあげられることをしなかつた
沖繩米軍基地に対して沖繩全軍労は、単
独でしかも柔手で挑戦しているのだ。軍
何時米軍武装接兵の銃から熱い弾丸が発
射されるかもしれない。何時米軍武装接兵
の銃剣が全軍労労働者の胸に深く突き
刺さるかもしれない。その可能性――
全軍労労働者の胸から真赤な鮮血がし
たり落ちる可能性は日々強まっている。

君！ 全国、全国の革命的労働者・学生諸
君！ 沖繩人民の闘争は十一月で終わったの
ではない。今まさに沖繩闘争は日米帝
国主義との直接的な死活をかけた闘争
に突入しつつあるのだ。この沖繩闘争
は一九六九年から七二年にかけて闘い
ぬかれようとしている日本帝国主義と
沖繩・南朝鮮人民との激烈な闘争の決
定的に重要な環をなしている。すなわ
ちこの段階における沖繩闘争の勝利的
前進か、敗北的後退かは直ちに極東解
放革命運動の前進か、後退かを決定し
うる程の重大な位置を占めているので
ある。アメリカのブルジョア陣も日
本のブルジョア陣も恐らく一九六九
年から七二年にわたる沖繩闘争の重大
さを本土の左翼の誰よりも深く痛感し
ている。だからこそ彼らは沖繩施政権
の帝国主義的返還を準備する過程です
でに沖繩本土復帰闘争の全面的鎮圧の
策プランの中心が沖繩米軍基地機能の
維持・強化にあることは間違いない。
又このためにのみ奴らは米軍基地機能
維持にとって直接の恐威であるところ
の沖繩全軍労をタタキその左派を毀滅
させようとしているのだ。全軍労左翼
活動家の大鷹首切り、そして決起した
全軍の徹底した鎮圧、彼らの方針はず
でに決定されている。

米軍当局は沖繩施政権が日本へ返
還される以前にどうしても沖繩人民の
闘争を鎮圧しておかねばならないと判

断している。アメリカ帝国主義はこの
時点で必ずしも日本帝国主義の反革命的
力量を全面に信頼しているわけではな
い。アメリカ帝国主義は全軍労を脅か
すに沖繩人民の闘争のエネルギ―を
後退させ、その上で日本帝国主義をロ
ーラーにして最終的に沖繩人民二五年
間の闘争を跡形もなく消し去ろうとし
ているのだ。

この闘いに妥協はない。アメリカ帝
国主義は巨大な沖繩本土復帰闘争を一
朝一夕に鎮圧しきれないことを知って
いたが故に、思いきった荒唐治をやり
ぬこうとしている。大鷹首切り沖繩
全就業人口の二〇%にならんとする労
働者からその生活手段を奪い、沖繩島
での生活を不可能にすることによって
沖繩島労働者を台湾、米、日本土へ流
渡するシナシーを立上げてあげようとし
ているのだ。アメリカ帝国主義はこの
ような巨大な反革命的・反人民的行为を
実施することによって沖繩人民の圧倒
的多数に、逆らうこと不可能な絶大な
権力者―米軍、というイメーシをタタ
キつけているのだ。歴史の産物として
のアメリカ帝国主義はあくまでも冷静
であり、残酷である。奴らはギリシヤ
戦争、朝鮮戦争、ヴェトナム戦争、コ
ンゴ内乱、古くはフィリピン人民皆
殺し作戦をやりぬいてきた同じ顔で、
冷静に残酷に今また沖繩の政治的・人間
を抹殺しぬこうとしているのだ。

君！ 全国、全国の革命的労働者・学生諸

君！ 諸君は今思い出すべきである。本土
大衆運動の圧倒的な国民平和主義意識
の渦の中で警棒と楯とガス弾の波に洗
われながら戦闘的闘争を展開したあの
歴史的な十一月闘争を思い出すべ
きである。我々は佐藤・ニクソンの沖
繩人民弾圧プラン決定を阻止するため
に、実力で阻止するためにこそこの血
をこの肉体を捧げたのではなかったか
！ 今や諸君！ 日米首脳会談の策謀
は銃と剣によって物理的に強行されよ
うとしているのだ。

アメリカ帝国主義は、首切りによ
って沖繩人民の二五年間の闘争を日本
帝国主義の足下に屈服させようとして
いる。日本帝国主義はこのアメリカ帝
国主義の先制攻撃のあとを受けてロー
ラーを準備し沖繩島を潰してしまっ
た意を整理している。沖繩の大学に大学立
法が適用されるだろう。沖繩の公務員
に地公法、国公法が適用されるだろう。

教職員には念入りに教育二法が適用される。佐藤直属の機動隊が沖縄に派遣されるだろう。国政参加によって、沖縄県は、日本政府に従属することを強制される。ドルが円に切り替えられこの際恐らく沖縄人民は収奪され、経済的にも日本本土の植民地になることを強制されるに違いない。奴らはこの立体的プランを一層具体化し一層鋭くとぎすますために、沖縄返還のための日米協議会をもち、日本帝国主義は沖縄庁を設置しようとする。アメリカ帝国主義に続いて日本帝国主義も又あの巨大な沖縄本土復帰闘争を最後の最後まで解体しつくそうとしているのだ。

全都、全国の労働者、学生諸君！
我々本土の左翼はこの日本帝国主義の沖縄人民に対する連続的な大攻撃を阻止する準備を完了しているだろうか？ 否！否！我々は立ち遅れている。百歩も、千歩も立ち遅れている。

日本帝国主義にとって今のところ最も恐ろしいのは本土の大衆運動ではない。沖縄島の闘争なのだ。これまで中国革命や、ヴェトナム革命のエネルギーは全てアメリカ帝国主義が吸収してくれたからこそ良かったものの、このクワシオン・沖縄・南朝鮮それぞれが破裂しそうになっている現在、この沖縄闘争は南朝鮮人民の闘争と並んで日本帝国主義をアジア革命の立場から根本的にゆり動かす政治的構造の位置を占めているのだ。だから日本帝国主義は、極東アジア解放革命の当面する最重要な環として沖縄闘争を何としても鎮圧しきらねばならない立場にある。

沖縄闘争を日帝が放置しておくことは、昨年の四・二四に沖縄人民が本土に上陸したちまろ十万の青年労働者、学生を組織し都内をシグサグデモの風の中にたたきこんだように、沖縄人民の闘争は二五年間の重さをかけて、どんどん無限に本土日本に押しよせ上陸し本土青年労働者、学生を十万、二十万、五十万と組織し、これを日本帝国主義の極東アジアへの離陸に実力で挑戦させようとする事は明々白々なのである。だからこそ沖縄が本土へ返還される以前に日本帝国主義は日本帝国主義にとって最大の恐威であり、最強の左翼である沖縄闘争を鎮圧つくさねばならないのである。日本のブルジョアジーは、沖縄闘争が鎮圧されるならば本土日本の急進主義諸潮流は重大な

後退を余儀なくされるだろうと判断している。全くその通りである。昨年の二・四セネスト、四月沖縄闘争が本土日本の職場に極めて広範な反戦活動家層を形成したことを見てみればわかるように、本土反戦派労働者の重大な闘争拠点である沖縄現地闘争の後退は、直接に本土反戦反民回急進主義潮流の後退を強制するだろう。

全都、全国の革命的労働者、学生諸君！

我々ははっきりと確認すべきである。当面する本土におけるアジア革命を前進させるための最大最重要な戦略的政治課題は断固として沖縄闘争を闘いぬくことであることを確認すべきである。日本帝国主義の物理的攻撃から沖縄本土復帰・自治権確立の闘争を断固として防衛しぬくこと、そしてこの沖縄闘争をテコに本土の伝統的な国民平和主義・組合主義の大衆運動構造を解体し本土に反帝反民回急進主義潮流を形成することなのだということを再度確認すべきである。

沖縄島人民の本土復帰・自治権確立の闘争が現在のところ最も日本帝国主義の総体と根本的に敵対し、その平和主義的・一国的ヴェールを剥ぎとらんとする闘争であるが故に、日本の戦後型国民平和主義的大衆運動構造とも衝突し、これを左から解体する本質的能力をもっているが故に、本土においてこの沖縄闘争を断固として防衛し沖縄闘争と敵対する日本帝国主義に敗北を諷刺することが最も革命的であり、最も反日帝的なのである。この点において我々は軽々しく佐藤政府打倒とか、安保決戦とか、六月安保武装決起とか六月首相官邸占拠とか叫ぶものではなく、当面、最低二年間は沖縄本土復帰闘争を日本帝国主義から防衛する度合いがすなわち日本帝国主義を解体していく度合いでありその最短距離なのだということを深く確信しなければならぬ。

全都、全国の革命的労働者、学生諸君！

我々がこの全軍労働者と共に決起する時に明確にしておかなければならないことは、我々は一般的な意味での首切り反対闘争―労働者の権利擁護闘争を闘うのではないということである。我々は全軍労働の首切りに対し勿論首切り全面白紙撤回のスローガンを掲げ、労働がなくなっても給料をよこせとい

う立場を貫徹し、もって労働者の占拠闘争を前進させるという原則的な、二重権力、の立場を貫くものである。それはここでは首切り反対二重権力闘争の前進は米軍基地を解体し、沖縄米軍施設全体を占拠し、管理するという闘争に発展せざるを得ない。すなわち、全軍労働者の首切り反対闘争はブルジョア、社民の宣伝するように首切り―基地縮小に反対する闘争なのではなく、まさしく沖縄米軍基地解体、占拠闘争なのだということである。沖縄人民二五年間の本土復帰闘争は、二・四セネスト、十、十三闘争を經過して、今遂に歴史的に米軍軍機構との物理的直接的衝突の局面に突入したのである。それ故現在闘がわれている沖縄全軍労働者の首切り反対闘争は単なる全軍労働のみならず、沖縄本土復帰闘争総体と日本帝国主義との総対決の局面に入らなければならない。沖縄の本土復帰闘争は、日米会談による、沖縄返還決議によって必然的に沖縄米軍基地解体、

日帝反対―沖縄自治権確立の闘争へ転化したのである。このように把握すると沖縄首切り反対闘争の主体は単に全軍労働のみではなく、沖縄本土復帰闘争の中心母体たる沖縄復帰協が断固たる全軍労働首切り反対闘争の主軸として全島の闘争として展開しぬかなければならぬこととはもはや明らかである。沖縄全島をあげて全軍労働者首切り全面白紙撤回闘争を闘いぬく時、沖縄復帰協は、自らを基地撤去、沖縄自治権確立全沖縄人民闘争評議会へと発展していくであろう。この全島人民の大衆的闘争機関は、全軍労働首切り反対闘争のみではなく、日本帝国主義の沖縄闘争鎮圧のあらゆる攻撃と最後まで闘いぬくであろう。沖縄人民の闘争評議会は全参加団体に直ちに、全軍労働支援ストを呼びかけねばならない。沖縄全島民のものである水道、公道を占拠し管理する体制を組織せよ！このことが今緊急に要請されている。沖縄人民は闘

かたうだろう。巨大な日本帝国主義の鋼の壁に火の玉となって激突し青白い炎を燃やし焼くようとしている。そしてこの鋼に穴をあけるため沖縄島人民の二四年間の闘争エネルギーが燃えつきるまで闘いぬくに違いないのだ。直ちにあらゆる職場、あらゆる学園に全軍労働支援、アメ大抗議、基地攻撃闘争を組織せよ！